

さくらほっと NEWS

vol.59
令和5年夏号

名市大病院さくらほっとNEWS vol.59 令和5年夏号

発行：名古屋市立大学病院 発行責任者：院外広報誌編集会議（年4回発行）
〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052-858-7114（経営課）

リハビリテーション科部長に岡本教授が就任



リハビリテーション科
岡本 秀貴部長

このたびリハビリテーション科部長(教授)を拝命しました岡本秀貴です。主に整形外科疾患や外傷後のリハビリテーション、手外科、スポーツ医学を専門にしています。

当院には多くのリハビリテーション科医師が在籍しており、運動器リハビリテーション、小児リハビリテーション、ニューロリハビリテーション、装着型ロボットを用いたリハビリテーション、嚥下リハビリテーション、外来心臓リハビリテーションに力を入れております。超高齢化社会を迎える我が国にとってリハビリテーション医療は非常にニーズの高い領域です。どんなに良い医療を受けてもリハビリテーションが十分にできないと寝たきりになってしまいます。わたくしたちは様々な疾患で入院中の患者さんが早期に退院や社会復帰ができるようなお手伝いをさせて頂いております。

名市大病院ではリハビリテーション科医師や療法士一丸となって患者さんファーストの医療を提供してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

看護師のユニフォームが変わりました。

当院の看護ユニフォームは、新病院へ移転後の2004年7月1日に、ワンピース型からパンツ型になり、看護職の象徴でもあったナースキャップは、感染対策のため廃止しました。

そして、18年間着用してきました愛着のあるユニフォームは、2023年4月1日より新ユニフォームへと変更になりました。伸縮性や通気性に優れた生地は、とても着心地が良く、ワンピース型を廃止したことで、患者さんの移送など働きやすくなりました。また、ユニフォームの色で看護職の交代制勤務を表すことにしました。患者さんの目線を考えて、明るい日勤帯は上衣が紺色、周囲が暗い夜勤帯は上衣を白色にすることで、患者さんから見ても日勤・夜勤の看護職が一目でわかりやすくなったと好評です。

看護職にとっても、勤務でユニフォームの色を変更することで時間外勤務縮減にもつながり、ワークライフバランスがとれるため気持ちも明るくなります。生き生きと働く名市大の看護職は、今後も患者さんに寄り添ってぬくもりのある看護をめざしていきます。



みらい光生病院



みどり市民病院

みどり市民病院・みらい光生病院が
医学部附属病院として開院しました。...2

リハビリテーション科部長に
岡本教授が就任 4

看護師のユニフォームが変わりました。... 4

名市大病院のチカラ Vol.27 3

ご寄附のご案内 4

ご寄附のご案内

名古屋市立大学病院「さくら基金」のご案内



名古屋市立大学病院では、広くご寄附の協力を仰ぎ、「笑顔と感動」への架け橋として役立てることを目的としてさくら基金を設置しております。

皆様から寄せられた寄附金は、患者さんはもちろんのこと、当院に携わる方の視点も取り入れながら医療の充実を図るために活用させていただきます。

何卒、当さくら基金設置の趣旨をご理解いただき、ご寄附のお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

さくら基金についてのお問い合わせ先 経営課経営係さくら基金担当

Tel : 052 - 858 - 7114 (直通)

受付時間：月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/for-patient/sakurafund/>



令和5年7月現在 当院では、一部の感染対策を継続したうえで病棟内の入室制限を緩和しています。

- 面会時間帯：平日15時～19時
：休日13時～19時
- 面会人数：2名まで
※個室30分以内、大部屋15分以内
デイルーム、患者食堂30分以内
〔病棟により制限がある場合があります〕

【入館される場合の注意事項】

- ・手指消毒（手洗い）の実施、各自でご準備いただいたマスクの着用をお願いします。
- ・発熱や咳などの症状がある方や体調が悪い方はご遠慮ください。
- ・病棟・中央診療棟1階の防災センターで入館受付を行ってください。

みどり市民病院・^{こうせい}みらい光生病院が 医学部附属病院として開院しました。

2023年4月に、名古屋市立緑市民病院・名古屋市厚生院附属病院が名古屋市立大学医学部の附属病院となり、『みどり市民病院』・『みらい光生病院』に生まれ変わりました。名古屋市立大学病院・東部医療センター・西部医療センターとあわせて、附属病院群で約2,200床の病床数となり、5つの病院からなる附属病院群として、各病院が特徴を生かしながら、高度急性期から慢性期まで幅広い医療を提供していきます。

名古屋市立大学医学部附属 みどり市民病院

地域密着型の大学病院として、地域医療のニーズに的確に対応した安全で高度な医療を提供する病院です。これまでの緑市民病院の医療や健診事業を継承しつつ、救急の初期対応の充実や多様な疾患に対する治療を行うとともに、予防医療など地域住民の健康づくりを支援し、健康社会の実現に貢献してまいります。

また、附属病院群として初となるAIを用いた内視鏡機器や整形外科手術支援ロボットを導入し、高度専門医療の強化も図ってまいります。



整形外科 手術支援ロボット



AIを用いた内視鏡機器

名古屋市立大学医学部附属 みらい光生病院

健康寿命の延伸に向けて、心身機能の回復・維持を目指した医療を提供する病院です。様々な疾患に対して、関連する診療科が連携をして横断的に診療を行う体制を整え、認知症やフレイルへの対応のほか、装着型サイボーグを使った治療など先駆的な技術を駆使したリハビリテーションを実施し、入院時から在宅生活を視野に入れた治療の提供と退院支援等、質の高い医療を提供してまいります。

また、附属病院化を機に、予約制の専門外来を開始し、回復期リハビリテーション病棟を開設します。



エントランス(改修後イメージ図)



3.0T MRIを新規導入
※共同利用検査をご利用いただけます。



写真：サイバーダイナミクス(株)
HAL® サイボーグ型ロボット

名市大病院のチカラ Vol.27

山岸災害医療センター長がトルコ地震で支援活動をしました。

国際緊急援助隊医療チームは、故緒方貞子理事長の元で発展してきた日本で唯一の政府組織の医療チームです。外務大臣の命で派遣され、医師、看護師、薬剤師、調整員等から構成されています。世界保健機構(WHO)から高いレベルの認証を得ており、入院可能な急性期医療(産科含む)に対応し、透析も可能で、手術室2つ、入院ベッド20床を有しています。今回、私はこの国際緊急援助隊医療チームのメンバーとして、トルコ地震に際し、現地にて災害支援をして参りました。

派遣要請を受け、直ちに当直明けに東京へ移動。国内各地から集合したメンバーと合流し、結団式。翌日のフライトでトルコのイスタンブールへ飛びました。国内線を乗り継ぎ、さらに翌日、ようやく活動拠点の都市、ガジアンテプに到着。被害の甚大さを目の当たりにしながらバスで移動し、オウゼリ国立病院仮設診療所に隣接した現地に到着、診療サイトを設営しました。計

12日間活動し、1日に約100名の傷病者を診察、手術も行いました。医療チーム全体(1~3次隊:計180名)では、約1ヶ月の活動中に約2000名を診察しました。これまでも国内外各地の医療支援に行かせていただきましたが、今回の経験も糧に、さらに今後も少しでも災害医療に貢献していけたらと思っております。

トルコ共和国の早期の復興を心より願っております!



臨床腫瘍部

安全、安心な薬物療法の実施に努めています

化学療法室では、医師、薬剤師、看護師、医療スタッフの連携によるチーム医療のもとに、安全、安心、安楽、有効、効率的な薬物療法の実施に努めています。

薬物療法の多くは抗がん剤です。抗がん剤は緻密な副作用マネージメントのうえで、より安全にがんを抑制することが可能になります。そのためには、がん専門の経験豊かな医療者によるマネージメントが求められ、医師のみならず薬剤師や看護師にもがん専門の医療知識・経験が必要になってきています。こういった高度ながん専門医療を円滑に行うためには専門職間のチームとしての協力体制が不可欠です。

これまで多くの薬物療法が入院で実施されてきましたが、吐き気止め、抗生剤、疼痛治療薬等の進歩により、5人に4人は外来でも安全に薬物療法ができるようになってきました。入院という制約のある環境ではなく、「普段の生活を送りながら外来通院して薬物療法を受ける」、そういう時代になっ

てきています。その治療の舞台が、化学療法室です。

化学療法室の抗がん剤実施件数は増加傾向にあります。そのため、効率的な抗がん剤調製が必要とされ、当院は2012年より抗がん剤自動調製ロボットを導入し、ロボットが抗がん剤調製件数の約半数を調製するようになりました。ロボットによる調製は、業務の効率化だけでなく、スタッフへの抗がん剤の曝露リスクを低減するメリットがあります。

これからも、チーム一丸となって、安全、安心な薬物療法を実施できるよう努めてまいります。

